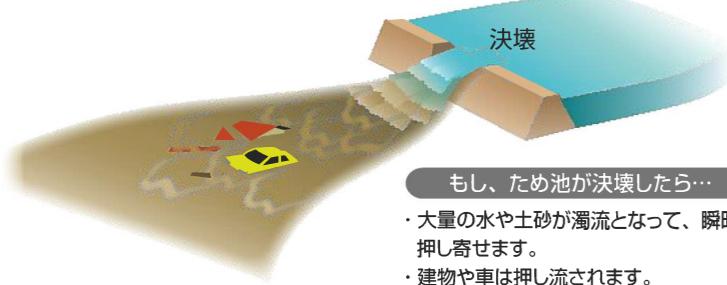


広島市ため池 ハザードマップ

みす こし かみ いけ みす こし した いけ 水越上池・水越下池

下流版

平成28年熊本地震や、平成30年7月豪雨などの近年の災害において、ため池が相次いで決壊し、下流の地域で被害が発生しています。このマップを活用して、ため池が決壊した場合に被害が予想される範囲や、避難方法を確認しましょう。



- もし、ため池が決壊したら…
- 大量的の水や土砂が濁流となって、瞬時に押し寄せます。
 - 建物や車は押し流されます。
 - 道路や住宅地、田畠は土砂に埋まります。

積極的に防災情報を入手しよう

広島市防災ポータル

避難勧告の発令状況、避難場所の開設状況等を確認できます。

パソコンサイト スマートフォンサイト
<http://www.bousai.city.hiroshima.jp/>



広島市防災情報メール

下記アドレスに、空メールを送信して、登録してください。

空メール送信
entry@k-bousai.city.hiroshima.jp



広島市避難誘導アプリ 「避難所へGo！」

災害が発生する前に適切な避難行動を行っていただくための防災アプリです。避難勧告等の発令時、開設中の最寄りの避難所へのルート案内を行います。



● ため池決壊について知ろう

» ため池決壊の原因（大雨と地震）

大雨

集中豪雨や長雨、土砂災害や流木などによって、ため池の水位が上昇すると、堤防で漏水が起つたり、越水した水の勢いで堤防が侵食されて、ため池が決壊するおそれがあります。

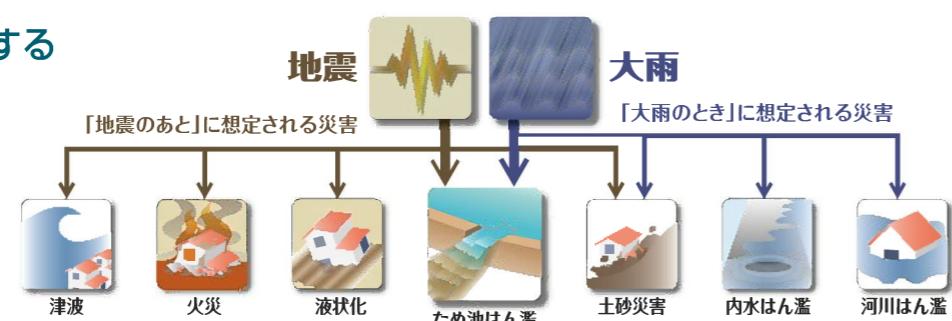
地震

地震による強い揺れによって、堤防に亀裂や陥没などが発生したり、地盤が液状化して、ため池が決壊することもあります。

○ ため池決壊と同時に発生するおそれがある災害

ため池が決壊するおそれがある状況では、周辺で様々な災害が発生していることが考えられます。

ため池決壊と同時に注意が必要です。



作成／令和2年(2020年)11月 広島市 経済観光局 農林水産部 農林整備課

● ため池決壊による浸水の深さを想定した避難の流れ

【マップを確認】

●想定される
浸水の深さに
よって、避難
方法は異なり
ます。

●裏面の地図
で、自分の家
で想定される
浸水の深さを
確認し、避難
の方法を考え
ましょう。

●

【浸水の深さ】

3m 以上

- 2階以上が浸水
- 水流が強い場合には、木造住宅が倒壊する危険がある

50cm～3m 未満

- 床上浸水
- 1階以上が浸水
- 強い水流の中を歩くことは危険

20cm～50cm 未満

- 床下浸水
- 大人のひざ下程度
- 浸水の深さがひざ上になると、歩行は危険

20cm 未満

- 足首までかかる深さ
- 歩行は可能だが、屋外への避難は危険

【判断】

可能な限り

時間と安全な
避難経路が確保
されていれば

少なくとも

状況により

状況により

可能な限り

【どこへ】

●浸水しない安全な場所
(避難場所、知人の家、協定施設など)

- 安全な場所へ
避難する
- 立退き避難

自宅の2階
危険のない近くの高い建物

- 自宅や近くの丈夫な
建物の2階以上に
とどまる
- 垂直避難

自宅にとどまる

- むやみな移動は
かえって危険
- 屋内安全確保

【どうやって】

- 歩きやすい服装
- 徒歩で避難
- お年寄りなどの避難に協力を
- 事前に避難先を話し合う

- 水、食べ物、簡易トイレ、
懐中電灯、ラジオ、貴重品
などを2階に持つて上がる
- 近所のお年寄りも一緒に

- こんなときは避難しましょう
- ・大規模な地震が発生したら
(2～3日後までは警戒が必要)
- ・集中豪雨、長雨のとき

● 正確な情報を入手しよう

ため池決壊の危険性が高まったことによる避難情報の発令を行うことはありません。

但し、土砂災害や洪水など、他の災害では危険性の高まりに応じて、避難情報を発令しますので避難開始の参考としてください。

広島市

避
難
情
報

- 広島市防災行政無線
- 広島市防災ポータル
- 広島市防災情報メール
- 広島市ホームページ
- SNS (ツイッター、フェイスブック)
- 緊急速報メール (エリアメール)

- 防災受信機
- Lアラート
- サイレン

住
民
の
み
な
ん

高

警戒
レベル 5

危
険
度

警戒
レベル 4

危
険
な
場
所
か
ら
全
員
避
難

警戒
レベル 3

危
険
な
場
所
か
ら
高
齢
者
な
ど
避
難

警戒
レベル 2

警戒
レベル 1

既に 災害が発生 している状況です。命を守るための最善の行動 をとりましょう。

速やかに危険な場所から、避難先へ避難しましょう。

指定緊急避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難しましょう。

避難に時間要する人（ご高齢の方、身体の不自由な方、乳幼児等）とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。

ハザードマップで避難行動を確認しましょう。

災害への心構えを高めましょう。

※各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

※危険を感じたら、これらの発表を待たずに自己避難をしてください。逃げ遅れによる被災が多くなっています。

